

低線量肺がんCT検診 2月15日よりスタート

梅のつぼみが春を知らせる季節となりました。

さて今回は低線量肺がんCT検診についてご紹介します。

肺がん検診と聞くと胸部レントゲンや喀痰検査を思い浮かべる方が多いと思われる。しかし、その検査で十分な効果を得られていますでしょうか？

1972年から胸部レントゲンの健診が始まりましたが、毎年のように

肺がんはがん死亡数1位です。昔に比べ、CTやMRIのような機械も増えた今こそ肺がん検診を見直す必要があると考えています。レントゲンに比べ、CTの方が精密な検査であることはご存じの通りであります。被ばく量が懸念されます。通常の診療に用いられる胸部CTは患者に症状があり、想定した疾患（肺炎や大動脈解離等々）の確認のために行われます。

検診では無症状の方や肺がん高リスクの方が対象になるため、肺がんを写せる程度まで線量を落とすことができます。肺がんは腹部や頭部と違い、肺野（空気）の中に腫瘍ができるため十分なコントラストがあるので低線量でがんを描出できます。また、CTなので胸部レントゲンでは見つけにくい数mm大の小さな肺がんの検出が可能です。

線量は胸部正面1枚と比較すると10倍、胸部正面・側面の2枚では3倍

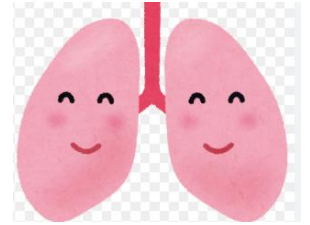
通常のCTの1/10に被ばく量は抑えられています。

検診対象者：40歳以上の男女（喫煙者はとくに）

費用：14000円（税込み） 結果は2週間以内に郵送

検査を受けるための飲食制限はありませんので当日でも検査を受けられます。

※実は非喫煙者もかかる肺がんは肺の抹消にでき、無症状かつ胸部レントゲンで写りにくいがんです。しかし、CTが得意な肺がんになります。下記の画像で確認してください。



◆肺がんの画像◆

エックス線で
見えるかな？

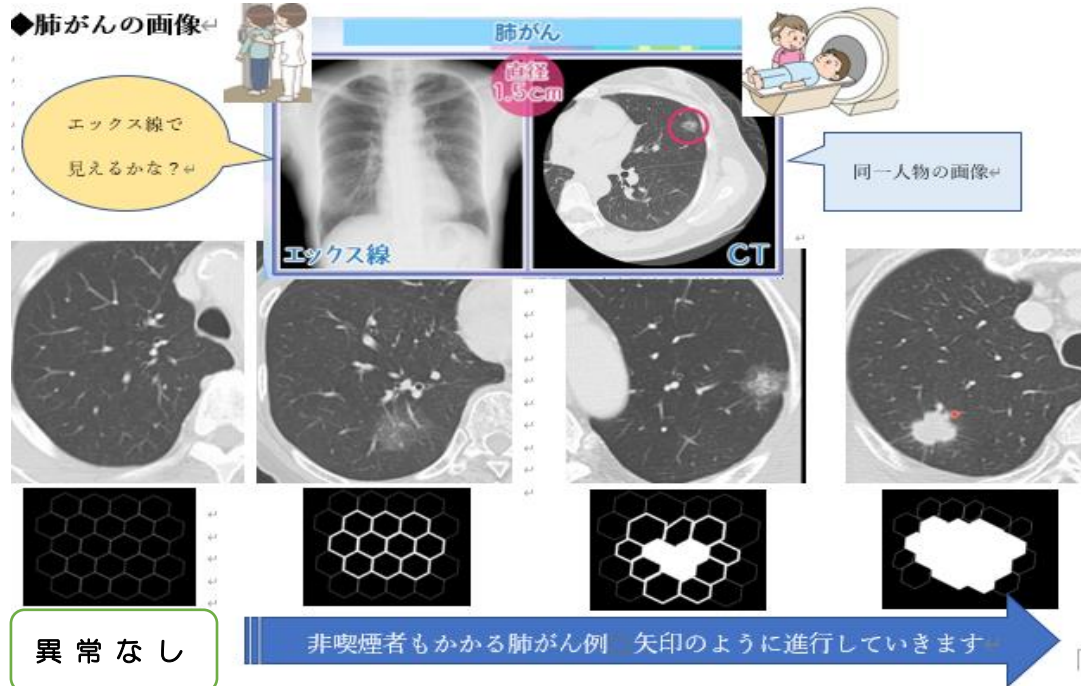
肺がん
直径1.5cm

同一人物の画像

エックス線 CT

異常なし

非喫煙者もかかる肺がん例 矢印のように進行していきます



もし、病院で災害にあったら、皆さんはどうしますか？

今回は、もし、病院にいたときに地震などの災害に合った時にどうしたらいいかについてお知らせしていきます。

当院は、耐震構造であり、倒壊の心配はありません。

病院にいる時に地震や災害が起きたら・・・。

『座っている人は、そのまま前かがみになって頭を守って下さい』

『立っている人は、しゃがんで、体勢を低くして手すりにつかまって下さい』

『揺れがおさまったら、人数を数えるので、その場を動かないでください』

など看護師から指示を出させていただきます。

危険ですので指示が出るまではその場を絶対に動かないでください！！

※院内のテロップにも流れていますので、気にしてみてください。

診察室の被災状況によっては、診察を継続できない可能性があります。

看護師の指示に従ってください。



災害はいつ起きるかわかりません。

災害が起きたときのために常備薬・かかりつけ医から処方されている薬は多めに（3日～7日分位）準備しておくといいでしょう。

お薬手帳も持ち歩くようにしましょう。

一般的な（水・非常食）なども準備しておきましょう。



☆ 年に2回、全体で防災訓練を実施しています ☆



防災訓練の様子



消火訓練



糖尿病患者さんの災害対策



糖尿病の方は、災害の時のお薬やインシュリンの備えはしていますか？

外来にお持ち帰り用の『糖尿病の患者さんの災害対策』のリーフレットがあります。是非、参考にしてみてください(*^▽^*)



患者様にとって、いつも優しく、誠実であること

医療法人
平和会

平和病院



045-581-2211



045-581-7651



〒230-0017 神奈川県横浜市鶴見区東寺尾中台29-1

<https://www.heiwakai.com/>